

# 友・の・会・ニ・ュ・ー・ス (仮題)

創刊準備号 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 平成 18 年 7 月 1 日刊

## 友の会に期待するもの

埼玉県立歴史と民俗の博物館 館長 高橋一夫

念願の友の会が発足した。私は平成 16 年 4 月、28 年ぶりに博物館に戻ったが、県立博物館施設 8 館を 4 館に再編整備しようとする真ただ中であつた。各館は地元説明会を行い、県民からのコメントを求めたが、再編整備に反対する声の一部が上がっただけである。県民は博物館施設に関心を示していなかったのである。ショックだった。新生博物館は、まずこの点を踏まえ、再出発すべきである。

県民や地域に支持される博物館にするにはどうすべきか悩んだが、結論はすぐに出た。地域と連携しながらお客様の視点で博物館を運営し、質の高いサービスをすることである。

昨今の財政事情から、どの部局も毎年予算は減少している。だから何もしないでもいいという状況ではない。こうした中で、博物館職員だけのサービスには限度がある。質の高いサービスを提供する手段として、体験ボランティアに加え、展示解説ボランティア制度も導入した。今後はバックヤードでの得意技ボランティアの導入も必要である。いまや博物館は、ボランティア抜きで運営や事業展開は考えられない。当館ボランティアの献身的な活動には頭が下がる。

それでも博物館に不足するものがある。それは民的な運営体である。博物館は官なので、どうしてもさまざまな縛りがかかる。そこで、これまでのボランティアとは質的に違う、運営体的ボランティアが必要なのである。

そこで組織を改編し、「企画担当」という部署を新設した。私は県立博物館の開館時にその開設準備に携わり、「博物館フレンド」の設立とその運営に携わった。友の会と博物館フレンドの目的はまったく違うが、開館以来の博物館フレンドを発展的に解消し、友の会の設立をすることにした。発足に至るまでには、友の会会長の宮川進さんをはじめ、設立準備に関わった準備委員各位の熱心な討議と活動があつたことを、ここに明記しておこう。

さて、友の会は産声をあげたばかりであるが、期待するものは大きい。まずは会員を増やすことが重要で、会員数は活動をとおして増加していくのではないだろうか。会の活動は、各種講演会の開催、見学会はもちろんのこと、ミュージアムグッズの開発と販売、本の刊行等々、活動は限りなく広がっていく。会員へのサービスや博物館サポーターとしての活動は、友の会の基本的役割であると考えるが、それに加え博物館におけるもうひとつの運営体、経営体としての活動が期待されるのである。博物館がぼやぼやしていたら、乗っ取るくらいの気概も必要だ。

そして、ともに知恵を出し合い、協力しながら質の高いサービスを提供し、いつも賑わいのある博物館にしたいものである。

# 友の会・平成18年度のイベントについて

友の会の発足初年度のイベントとして、次のようなものを計画しております。ぜひ、ご参加くださいますよう、お待ちしております。

- 7月30日(日) ☆会員放談会 「私はこれを選ぶーミュージアムグッズの銘品、逸品ー」  
開催中のミュージアム・グッズフェアを参考として、将来、友の会として、  
グッズを扱うなら、こんなものにしたい・・・などの意見交換を行なう。
- 8月13日(日) ☆見学会 「嵐山・史跡の博物館で開催中の最新出土品展」団体鑑賞  
案内者＝同博物館・学芸担当者
- 9月30日(土) 講演会 <内容・講師・未定>
- 10月28日(土) 講演会 「剣豪と名刀」(題名・内容未定) <これが居合いだ!!>  
講師＝上尾市教委・小宮山克己氏 剣術、名刀のお話と居合い演武
- 11月下旬(日取り未定) ☆学芸員を囲むお茶の会 講師＝斉藤修平・学芸主幹
- 12月(日取り未定) ☆特別解説会 「学芸員の眼で見る博物館」  
6月に講師をお願いした鈴木学芸主幹は考古のご専門。今回は民俗をご専門の飯塚 好学芸主幹にお願いをして、「学芸員はこんなところを見ている」というお話をお聴きします。
- 1月(日取り未定) ☆見学会 「県内の前方後方墳を全部見る」  
小久保 徹主席学芸主幹のご案内により、「前方後方墳」を県北から上福岡まで見てまわる。バスツアーの予定。
- 2月(日取り未定) ☆特別解説会 「展示物を読み下す」  
岸 清俊学芸主幹に博物館の展示物の中で、読めないものを読み下していただき、古文書についての「見方」を勉強する。
- 3月(日取り未定) ☆見学会 「発掘現場・特別見学会」  
水村孝行副館長のご案内により、県内の発掘現場を見学する。

☆は会員限定のイベント

## 会員の皆様へサポートスタッフのお願い

皆様の「友の会」のために、ぜひ、当会のサポートスタッフになってください。

次のような「お仕事」について、無償ボランティアでご協力いただける方を探しております。

### 1. 受付当番

○月に1回程度、ご都合の良い日で結構です。(前もってお教えてください) 9時から4時30分まで。博物館の当会受付窓口にお詰めいただき、ご入会手続き、ご照会に対するチラシ発送などをしていただきます。

### 2. ミュージアムグッズ・フェアの当番

7月22日(土)から8月6日(日)まで開催のフェアでグッズを販売していただく当番です。当番者2名は、すでに決めておりますが、手薄な場合も予想されますので、毎日、お一人でもお二人でもご助力をお願いいたします。

○上記日程のうち、ご都合の良い日。9時から4時30分まで。グッズの販売をしていただきます。

上記の、1または2につきまして、ご協力いただけます方は、FAXにてご連絡をお願いいたします。1,2共に具体的なご希望日(1は8月の)をご記入ください。

FAX=048-941-0440 中村 均

# スクラム組んで、博物館を支える力に！！

友の会・会長 宮川進

ようやく、博物館の友の会が発足いたしました。この文化の香り高い、埼玉県立博物館に友の会がなかったことに不思議な思いをしておりましたが、はからずも、歴史と民俗の博物館のスタートと期を同じうして、ここに、発足にこぎつけることができ、みなさまのご支援とご協力に心からお礼を申し上げます。

こういう時期にこそ、博物館を盛り立てようとの皆様の熱い思いが、友の会には燃え上がっております。

これが友の会の大きな武器です。同じ思いの同志がスクラムを組めば、天をも地をも動かせるのではないかと思います。いや、動かさねばならないのです。

友の会に参加したといっても、私たちは1円の利益も受けるわけではありません。むしろ、経済的にも、時間的にも、持ち出しや負担も多いことでしょう。しかし、私たちは博物館のために、ひいては埼玉県の文化発展のために立ち上がったのです。ともに苦労をいとわない友がいることを信じ、博物館のために何をなすべきかを考え、実行してゆきたいと思います。

まだまだ、組織も制度も未整備なところが多い状態で、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、お許しをお願い申し上げます。

ぜひ、これからも変わらぬ熱い思いを、友情を、よろしく願ひいたします。

## このニュース（会報）に名前をつけてください。

この創刊準備号は、とりあえず、「友の会ニュース」という題名で発行させていただきました。しかし、この題名はあくまで、仮題です。ぜひ、友の会の会報にふさわしい題名をお付けください。

たとえば、次のような題名もあるかと思います。

- \* 「たかはな便り」 博物館の所在地から～
- \* 「レミ＋ト」 歴史の「レ」、民俗の「ミ」＋友の「ト」・・・「レミート」と読む。
- \* 「歴民の友」
- \* 「さいたま歴民」
- \* 「JUNO」 所在地の地域の名「寿能」から。JUNO とはローマ神話でジュピターの妻で女性の守護神。気品の高い美人のことという。

上記にこだわらず、ぜひ、素晴らしい名前をお付けください。

題名についてのご投稿は下記へ～

〒338-0075 さいたま市浦和区針ヶ谷 4-1-23 1-104 瀧澤三郎 (FAX048-833-7683)

締め切り：7月31日 8月の理事会で決めさせていただきます。

---

友の会が4月に創立されてから、3ヶ月がたとうとしています。皆様のご支援をいただきまして、会員数も140名ほどとなりました。ここでようやく余裕もでき、高橋一夫館長の巻頭のお言葉もいただいて、とりあえず、創刊準備号を発行させていただきました。

# 友・の・会・ニ・ュ・ー・ス (仮題)

創刊準備第2号 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 平成18年8月1日刊

## 8月13日(日) 嵐山見学会へご参加ください!!

友の会としての、初めての見学会を次のように実施いたします。暑い8月の日ではありますが、記念すべきイベントに、あなたのご参加をお待ちしております。

◎埼玉県立嵐山史跡の博物館(旧埼玉県立歴史資料館)へ「地中からのメッセージ-埼玉県下・最新出土品展-」を見に行く

◎とき 平成18年8月13日(日)

◎集合 東上線・武蔵嵐山駅西口 午前10時 <博物館での展示見学は10時30分から>

大宮駅から	大宮駅発	川越線(埼京線快速)	8:36
	川越駅着		8:53
	川越駅発	東上線(急行・小川町行)	9:02
	武蔵嵐山駅着		9:35
浦和駅から	浦和駅発	高崎線・高崎行	8:24
	大宮駅着		8:31<上記・大宮駅発へ>
朝霞台駅から	朝霞台駅発	東上線(急行・小川町行)	8:48
	武蔵嵐山駅着		9:35

<交通費 大宮駅から 720円 朝霞台駅から 570円>

◎参加費 保険料 50円のみ。(保険がかからない場合がありますのでご了承ください)  
観覧料 一般・100円は各自ご負担ください。(シニア無料)

◎昼食は各自ご持参ください。

◎展覧会観覧のあと、菅谷館跡(畠山重忠居館)の見学と大蔵館跡(源義賢居館)、稲荷塚古墳をめぐる歴史散歩を行います(片道約20分)。(参加自由)

=源義賢は源為義の次男(帯刀先生義賢=たてわきせんじょうよしかた)。平安末期に上野国多胡から移り住んだと伝えられ、悪源太義平に殺されたのが大蔵館。その子が木曾義仲。

◎ご参加お申込み

8月9日(水)までにハガキに会員番号・住所・氏名をご記入の上、お申込みください。

〒343-0041 越谷市千間台西2-17-16 宮川進 (お問合せ TEL&FAX 048-975-9139)

お申込みいただいた方にご返事は差し上げませんので、ご了承ください。

◎暑いさなかですので、各自、お身体にご無理のないように、ご参加ください。

## 9月30日（土）の講演会について

現在、講師について交渉中です。決定次第、お知らせいたします。

## 10月28日（土）の講演会について

10月7日（土）から11月19日（日）まで開催予定の企画展「名刀の1千年」にあわせ、当会主催の講演会を次のとおり開催することに決定いたしました。ぜひ、あなたのスケジュールにお入れください。

「今に伝わる古流居合のわざとこころ」

埼玉県剣道連盟 居合道部 夢想神伝流 七段

小宮山克己氏（上尾市教育委員会）

名刀についての企画展にあわせて、刀の使い手にスポットをあてたお話をお伺いしようというものです。演武も見せていただきます。あの「子連れ狼」や「座頭市」の主人公の剣法が「居合い」！ 刀を抜いた瞬間に生死が決まります。その主人公たちと小宮山先生とどちらが強いのか、あなたの判定やいかに？

---

なお、友の会の各イベントについては、なるべく早めにご連絡いたしますが、個々のお申込み方法等は未決定の場合も多いと思われます。

個々のイベントについてのお申込み方法は、その都度、ニュースで発表させていただきますので、それをご覧の上、お申込みください。

まだまだ、友の会組織も整備中でございますので、いましばらく、不行き届きの点をお許しくさせていただきますよう、お願い申し上げます。

# かさねて、会員の皆様へサポートスタッフご登録のお願い

皆様の「友の会」のために、ぜひ、当会のサポートスタッフとしてのご登録を  
お願いいたします。

サポートスタッフとは、当面、次のような「お仕事」について、無償ボランティア  
でご協力いただける方として、あらかじめ、ご登録いただくというものです。

## 1. 受付当番

月に1回程度、ご都合の良い日に、9時から4時30分まで、博物館の当会受付  
窓口にお詰めいただき、ご入会手続き、ご照会に対するチラシ発送などをして  
いただきます。

## 2. イベントスタッフ

見学会や講演会などの際にスタッフとして、ご協力いただくものです。

◎上記の、1または2につきまして、ご協力いただけます方を登録させていただき、

随時、ご連絡して、具体的日時を打合せのうえ、ご協力をお願いいたします。

◎ご協力いただけます方は、下記へFAXにてご連絡をお願いいたします。

FAX=048-941-0440 中村 均

**友の会は、博物館のファンの集い、博物館を支える仲間の集いです。**

**サポートスタッフは、博物館を支える、あなたの善意の具体化です！**

## ミュージアムグッズフェアの売上げにご協力ください。

全国 49 の博物館から集めたミュージアムグッズを展示するグッズフェアは、実は全国でも初めての催しです。博物館と友の会の共催にさせていただき、売り場の人員をだすかわり、売上げ純益は友の会にいただけることになっています。

もし、会員のみなさまが、グッズをお買い上げいただきますと、その何%かは会の収入となるわけです。

各博物館の興味深いグッズも数多くあります。ぜひ、会期中（8月6日（日）まで）にお越しいただき、お気に入りのグッズをお買い求めください。よろしく、お願いいたします。

## 民俗芸能公演にもあなたのご協力を！

与野本町の彩の国さいたま芸術劇場で、別紙のとおり実施される第1回の民俗芸能公演は、なにしろ、1千名収容という大ホールでの公演のため、それが埋まるかどうか～ご担当の博物館・斉藤修平学芸主幹が「ホールがガラ空き」の夢をみて、うなされる夜が続くぐらい心配されています。友の会として、斉藤さんの心配をすこしでも少なくしてあげようではありませんか！

みなさまの所属されている各種のグループで、チラシの配布をお願いする次第です。チラシを配布していただけます場合は必要部数を下記へFAXまたは郵便（電話不可）にて、ご連絡ください。

〒334-0061 川口市新堀 620-1-417 青山定義 FAX 048-295-5765

<グループで団体参加が決定した場合もご連絡ください>



# 友・の・会・ニ・ュ・ー・ス (仮題)

創刊準備第3号 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 平成18年9月1日刊

## 友の会、12月までのスケジュール決定！

☆9月30日(土)は講演会「仏像・その見方、楽しみ方」

9月30日(土)は、今回、チラシを同封させていただきましたが、博物館の西口由子主任学芸員による講演会をさせていただきます。10月3日(火)から12月3日(日)まで、上野の東京国立博物館で特別展「仏像」が開催される折でもあります。ぜひ、この機会に、仏像のどこを見るのか、どこを楽しむのか、知っておいていただきたいと思います。

なお、会員の方は優先してお席を用意いたしますが、準備の必要がありますので、ハガキによるお申込みはなさってください。その際、会員番号はご明記ください。ご記入のない場合は一般の扱いとなりますので、よろしく願いいたします。

☆10月28日(土)は特別展にあわせての講演会

10月7日(土)から11月19日(日)の間、当館で開催の特別展「由来 伝来 名刀の一千年」にあわせての講演会です。講師は夢想神伝流七段の小宮山克巳氏(上尾市教育委員会)、演題は「今に伝わる古流居合のわざとこころ」です。滅多にみられない「居合」の実演もあります。時間は1時半から3時。参加申込みは一ヶ月前から博物館(048-645-8171)へ。会員番号を必ず言ってください。会員番号なしでは、一般の扱いとなってしまいますので、ご注意ください。

☆11月19日（日）は<会員限定>斉藤修平学芸主幹をかこむお茶の会

博物館ですれ違ってはいても、なかなかお話する機会もない学芸担当の方とのお茶の会です。斉藤さんは、11月5日（土）、さいたま芸術劇場での第一回民俗芸能公演を終えて、ホッと一息のころです。この公演の苦心談、民俗文化センターの思い出話、それからもちろんご専門の「民俗」についてのお話など、楽しいお話が聴け、また質問にもお答えいただけます。会員だけの特典をぜひ、活かしてご参加ください。時間等はあらためてご連絡いたします。

☆12月17日（日）は<会員限定>飯塚 好学芸主幹の特別解説会

6月に特別解説をお願いしました鈴木学芸主幹は考古（縄文）がご専門。今回は民俗がご専門の飯塚学芸主幹をお願いをいたしました。4月から、この博物館に加わった民俗の展示について、特別解説をしていただきます。

たとえば、飯塚さんが他の博物館の民俗の展示室に入ったとき、どこに眼がゆくのか、あるいはこの博物館の民俗室のどこを見てほしいのか～などをお伺いしたいと思います。

ただなんとなく、通り過ぎていたかもわからない「民俗」の展示の見方もわかる、これも、あなたの人生をもっと楽しくする会になるかも知れませんね。

このイベントも詳細は後日、ご連絡いたします。

ぜひ、この日をあなたのスケジュールにマークしておいてください。

---

1月は「県内の前方後方墳を全部見る」会員限定のバス見学会。2月は岸学芸主幹による「展示物を読み下す」特別解説会。3月は「発掘現場・特別見学会」の予定。

# あなたもぜひ、サポートスタッフに！？

皆様の「友の会」のために、ぜひ、当会のサポートスタッフとしてのご登録をお願いできませんか？ すでにお申込みいただいた 5 人の方のお仲間になってください。サポートスタッフとは、次のような「お仕事」に無償ボランティアで、ご協力いただける方として、あらかじめ、ご登録いただくものです。

## 1. 受付当番

月に 1 回程度、ご都合の良い日（土、日、祝）に、9 時 30 分から 4 時まで、博物館の当会受付窓口にお詰めいただき、ご入会手続き、ご照会に対するチラシ発送などをしていただきます。

## 2. イベントスタッフ

見学会や講演会などの際にスタッフとして、ご協力いただくものです。

◎上記の、1 または 2 につきまして、ご協力いただけます方を登録させていただき、

随時、ご連絡して、具体的日時を打合せのうえ、ご協力をお願いいたします。

◎ご協力いただけます方は、下記へ FAX にてご連絡をお願いいたします。

FAX=048-941-0440 中村 均

**友の会は、博物館のファンの集い、博物館を支える仲間の集いです。**

**サポートスタッフは、博物館を支える、あなたの善意の具体化です！**

# 民俗芸能公演に、みんなで行きましょう！

すでにお知らせのとおり、11月5日（日）に与野本町の彩の国さいたま芸術劇場で催される第1回の民俗芸能公演には、友の会みんなで開催しましょう。

この公演については先にチラシをお送りさせていただきましたが、県内のお神楽、木遣りなどが演じられ、開場1時、開演1時半の予定です。さいたま芸術劇場大ホールというのも滅多に行けないところですので。友の会として集まって参加する方法については、あらためてご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

みなさまの所属されている各種のグループで、この公演のチラシの配布をしていただけます場合は必要部数を下記へFAXまたは郵便（電話不可）にて、ご連絡ください。

〒334-0061 川口市新堀 620-1-417 青山定義 FAX 048-295-5765

<グループで団体参加が決定された場合もご連絡ください>

## 理事会からのお知らせ

### 1. ミュージアム・グッズ・フェアについて

7月末から8月初めにかけて博物館ロビーで開催されました「ミュージアム・グッズ・フェア」につきましては、会員のみなさまのご協力をいただきまして、ありがとうございました。

おかげさまで、期間中に100万円を超える売上げがありました。原価販売という条件の博物館が多く、純益としては10%に満たない成果ではありました。しかし、第一回のこととて、まずまずのものかと考えております。

フェアにつきましては、全国で初めての試みであり、朝日新聞文化面への取り上げなど、博物館のイメージアップにいささかでも、つながったかと評価しております。

### 2. 友の会ニュースの正式題名について

会員のみなさまからも、題名についてご応募をいただき、8月26日の理事会で検討いただきましたが、正式決定にはいたらず、9月の理事会での継続審議となりました。

### 3. 群馬県立歴史博物館友の会との交流について

ミュージアム・グッズ・フェア開催中に、同友の会から東宮副会長と小保方さんが来館され、当会理事と懇談の機会をつくっていただきました。同友の会はすでに創立20年を経過されています。歴史をもった隣県の友の会として、これからも友好を保ち、いろいろと教えていただかねばならないと思います。

会員の方々の交流も考えておりますので、その折は、よろしくお願いいたします。

### 4. 会員数について

みなさまのご協力により、会員数も150名の大台にのりました。お友達などへのご入会のお誘いをこれからも、よろしくお願いいたします。（10月から3月までにご入会の方の年会費は1,000円です。）